

稲 WCS の安定生産と飼料用米給餌への支援

湖東農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

畜産飼料の多くは輸入に依存しており、輸入飼料価格の恒常的な高値は、畜産農家の経営を大きく圧迫しています。このような中、飼料自給率の向上を図るため、稲WCSや濃厚飼料の代替となる飼料用米の生産拡大に向けた施策が始まっています。

管内でも昨年度より稲WCSの生産が開始され、今年度から新たに2戸の酪農家が飼料用米生産に取り組む意向があったことから、稲WCSの収量および品質の確保と飼料用米の給餌に向けた支援を行いました。

【普及活動の成果】

管内の稲WCSは、麦跡に作付される栽培も多く、移植時期が遅れることから生育量の確保が課題となります。このため、密植と早期追肥による初期生育量の確保を指導するとともに、乳酸菌の添加試験を通じて品質の向上を図ることを支援しました。

その結果、収量は前年を300kg/10a上回る事ができました。また、サイレージの品質は適期収穫や乳酸菌添加により極めて高い品質を得ることができました（V-SCORE（サイレージ評価指標）で99.1）。

飼料用米は、玄米のままでは消化率が低いため給餌前に破砕作業が必要となります。このため、県畜産技術振興センターが所有する破砕機を借り受け、県農業技術振興センターと連携し、個々の牛舎で破砕作業の指導を行いました。1月から給餌が開始し、乳量等の低下等影響は出ず、濃厚飼料の代替として利用することが実証できました。

稲WCSと飼料用米取り組み状況 栽培農家数(内畜産農家数)

取組状況	H22年度		H23年度	
	農家数	面積 a	農家数	面積 a
稲WCS	3(2)	420	5(2)	749
飼料用米	—	—	2(2)	53

<今後の課題>

畜産農家では、麦跡等を利用した一層の稲WCSの作付拡大と水稲跡を利用した早生大麦WCSも検討されています。飼料自給率の向上を目指し、栽培方法に関する情報の提供や安定生産に向けた支援を予定しています。

一方、飼料用米については、生産量が増加すると破砕作業や保管場所の確保など、畜産農家だけでは解決できない問題もあり、今後、普及拡大には関係機関等と検討する必要があります。



飼料用米の破砕作業